

標準委員会 リスク専門部会 内部溢水PSA分科会
第12回内部溢水PSA分科会議事録

1. 日 時 2011年11月16日（水） 13:30～17:00

2. 場 所 原技協 A/B会議室

3. 出席者（敬称略）

（出席委員）小倉主査，高木副主査，村田幹事，内田委員，織田委員，喜多委員，桐本委員，栗坂委員，高石（佐藤委員代理），豊嶋委員，安田（成宮委員代理），中西（福山委員代理），藤井委員、宮本（岩田委員代理）、高橋委員
(14名)

（常時参加者）佐竹，園山(2名)

（傍聴者）原口（1名）

（敬称略）

4. 配付資料

RK1SC-12-1 第11回内部溢水PSA分科会議事録(案)

RK1SC-12-2 第11～10回内部溢水PSA分科会のコメント対応

RK1SC-12-3 第9回以前の内部溢水PSA分科会コメント対応

RK1SC-12-4 リスク専門部会および標準委員会のコメント対応

RK1SC-12-5 内部溢水PSA標準案

RK1SC-12-6 内部溢水PSA標準案（見え消し付き）

RK1SC-12-7 ASMEPRA標準との比較

参考資料

参考-1 第11回内部溢水PSA分科会議事メモ(案)

参考-2 第17回リスク専門部会報告（内部溢水定義と範囲）

参考-3 内部溢水PSA分科会スケジュール(案)

参考-4 (RK1SC) ASMEにおける溢水PSA標準

参考-5 東通原子力発電所 一般配置図

5. 議事内容

議事に先立ち，開始時点で委員 18 名中 14 名が出席しており，分科会成立に必要な定数（12 名以上）を満足している旨が報告された。

(1) 前回議事録確認（RK1SC-12-1）

村田幹事より，RK1SC-12-1「第 11 回内部溢水 PSA 分科会議事録（案）」を用いて，第

11 回分科会の内容について確認が行われた。確認の結果特にコメントは無く、議事録は正式に承認された。

(2) リスク専門部会および標準委員会のコメント対応について (RK1SC-12-4)

村田幹事より、RK1SC-12-4「リスク専門部会および標準委員会のコメント対応」を用いて、第 17 回リスク専門部会におけるコメント及び内部溢水 PSA 分科会からの提案事項について報告が行われた。

- ✓ リスク専門部会において、山口部会長から標準のタイトルは「内部溢水事象」とせず単に「内部溢水」でいいのではとのコメントがあった。分科会の対応としては、タイトルを「原子力発電所の内部溢水を起因とした確率論的安全評価に関する実施基準」に変更する。
- ✓ 用語の定義に関して、以下の提案を行い了承された。
 - ・内部溢水の定義は、発電所内部の溢水源による溢水とし、起因事象は内的事象・外的事象の両方を含む。ただし、本標準の対象は、溢水源が発電所内部にあり、溢水の起因事象が内的の場合とする。
 - ・「プラント」という言葉は、共用設備を含む号機の意味で使用する。
- ✓ タイトルの変更案がリスク専門部会において了承されれば、現時点でのリスク専門部会のコメント対応は完了する。

(3) 内部溢水PRA標準案について (RK1SC-12-5、RK1SC-12-6)

RK1SC-12-5 「内部溢水PSA標準案」及びRK1SC-12-6 「内部溢水PSA標準案（見え消し付き）」を用いて、内部溢水PSA標準案について議論を行った。

(a)被水・没水以外の溢水モードについて

豊嶋委員より、被水・没水以外の溢水モードの定性的評価についての記載案について報告があり、議論を行った。

- ✓ 本文 4.1 は、被水・没水以外の溢水モードは定性的評価をすることが望ましいという記載にし、附属書 A は参考とする。
- ✓ 「リスク要因となりうると判断できる場合、当該溢水モードを報告書に記載する」という記載は、附属書 A の序文に定性的評価を行うことが望ましいという形で、記載する。
- ✓ 解説 1.1 の定性的評価についての記載は、解説 1.2 として分離し、タイトルを「被水・没水以外を溢水モードの取り扱い」等とする。また、リスク上重要な事象を見落とさないように定性的評価を実施するという旨を追記する。

(b)附属書 I(参考)について

高橋委員より、附属書 I における起因事象のスクリーニング例の記載を削除することについて説明があった。

- ✓ 附属書 I を引用する本文 8.3 には、スクリーニングについての記載があるので、附属書 I においてもスクリーニング例は削除せず、現状の記載とする。
- ✓ ただし書きは、本文の内容と重複するので削除する。
- ✓ なお書きに対して附属書を引用するのはおかしいので、本文のなお書きの「なお」はとる。

(c)附属書 J について

喜多委員より、修正を行った附属書 J について説明があった。

- ✓ J.2 におけるスクリーニングに関する記載は、本文 9.2 と重複するので削除する。
- ✓ 図 J.1 において、溢水を示す図は、溢水シナリオ A-2 を示すものとし、溢水を示す図と溢水シナリオとの対応付けを明確にする。

(d)その他

村田幹事より、(a)～(c)以外の溢水 PSA 標準案の変更点について説明があった。

- ✓ 英語のタイトルは現在の標準案のものとし、前書き中のタイトル名は現在の標準案のタイトル名と合わせる。
- ✓ 附属書 K の、溢水発生頻度・溢水シナリオ発生頻度の説明において、本文の算出式との対応付けを明確化する。

(4)内部溢水 PSA 分科会コメント対応について

村田幹事より RK1SC-12-2 「第11～10回 内部溢水PSA分科会のコメント対応」及び RK1SC-12-3 「第9回以前の内部溢水PSA分科会のコメント対応」を用いて、分科会のコメント対応状況について報告があった。また、コメント対応の一部として、豊嶋委員より、RK1SC-12-7 「ASME PRA標準との比較」を用いて、内部溢水PSA標準案とASME PRA標準の比較について説明があった。

- ✓ ASME標準と学会標準はほぼ同等であることを確認した。
- ✓ 分科会のコメント対応は全て完了したことを確認した。
- ✓ 解説2.3において、「内部溢水により機能が阻害される要因がない」と書くと、パイプホイップなどによる影響が無いとなるため、「内部溢水」ではなく「被水・没水」とする。

(5)スケジュールについて

本日の意見を反映し 11 月 22 日以降に、標準案およびリスク専門部会用パワーポイントを For comment として委員に送付。12 月 1 日までコメント受付。

12 月 12 日 リスク専門部会 溢水 PSA 標準最終報告

以上